

JASRAC創立75周年記念事業

JASRAC講座 ミュージック・ジャンクション30回記念

## ワールドミュージック特別編～世界を旅する音楽～

(2月15日 イノホール)

世界各地の音楽にスポットをあて、演奏を交えて解説するJASRAC講座。2005年から始まったこのシリーズが30回目を迎えたことを記念して、日本も含めた世界各地の音楽に精通している方々を招き、伝統色のある世界の音楽の魅力を演奏とともに紹介した。この講座の様子は、ライブ動画配信サービス「ニコニコ生放送」と「Ustream」で配信した。

コーディネーター：北中正和(音楽評論家) 案内役：ピーター・バラカン(ブロードキャスター)  
演奏：Saigenji(シンガーソングライター)、John John Festival(アイリッシュバンド)、  
常味裕司(ウード演奏家)、OKI、MAREWREW



案内役のバラカン氏(左)と北中氏

### ■ワールドミュージックという言葉の由来

北中氏とバラカン氏が「ワールドミュージック」という言葉について「1980年代にイギリスのレコード店でレコードを分類するとき、どのジャンルにも当てはまらない世界の音楽を便宜上“ワールドミュージック”という呼び方で分類したのがはじまり」と由来を語った。

### ■アイルランド音楽

John John Festivalのメンバーでアイルランドの打楽器「バウロン」を演奏するトシバウロンさんは、アイルランドの伝統音楽について「もともとダンスの伴奏音楽として発展したが、今では音楽だけでも盛んに演奏されている」と紹介。イーリアンパイプス(アイルランド音楽で使われるバグパイプの一種)について奏者の中原直生さんは「バグパイプというとスコットランドでスカートをはいた男性が口で吹くものが有名だが、アイルランドのバグパイプは座りながら肘で空気を入れて音を出す」と解説した。



John John Festivalの皆さん



イーリアンパイプスの解説の様

### ■アラブ音楽

ウード奏者の常味裕司さんは「アラブ、トルコ周辺で使われている弦楽器・ウードは日本の琵琶の祖先でもあり、ヨーロッパのリユートの原形ともいわれ、中央アジアから世界に広がったと考えられている」と紹介。アラブの音階について常味さんは「細かな音階によって微妙な感情を表現できるのが特徴。アラブではその独特の感覚が人間的という考え方があり、微妙な音程を聴き分けながら音楽を楽しんでいる」と実演を交えて解説した。



常味裕司さんのウード演奏



ウードについての解説

### ■ブラジル音楽

ブラジルの音楽についてSaigenjiさんは「現地のレコー

ディングスタジオでも、リラックスした雰囲気の中からシャープなリズム音楽が生まれるのはとても不思議」と自身が撮影した現地の写真を交えて紹介した。

バラカン氏は「ジャズのような複雑なコードをよく使うのに、楽譜を使わないところも意外」とコメント。これに対しSaigenjiさんは「僕たちの世代では譜面をほとんど使わず、見よう見まねで、どれだけかっこよくリズムカルにギターを弾けるかを競っている。洗練されたコードやリズムはベーシックな部分で音楽を創りたいという意識の表れ」と述べた。



Saigenjiさんのギター演奏

### ■アイヌ音楽

樺太・アイヌの伝統弦楽器「トンコリ」奏者のOKIさんは「トンコリは基本的に五弦だが、奏者ごとにオリジナルの楽器を使い、弦の並びも違う。先人の伝える音楽を1つの楽器で表現するため、自分は六弦の楽器を使っている」と説明した。



トンコリを演奏するOKIさん

アイヌの伝統歌を輪唱したMAREWREWのマイさんは「一人ひとりの声を聴き分けながら聴いているはずが、誰の声を聴いているのか分からなくなって“トランス”状態になるのが楽しい」と述べ、会場の笑いを誘った。



アイヌ伝統歌を輪唱するMAREWREWの皆さん

最後は出演者全員が登壇し、アイヌの伝統歌『humpe yan na』を観客と一緒に輪唱した。



フィナーレは全員でアイヌ伝統歌を輪唱

当日の様子は、JASRACホームページでストリーミング配信しています。

<http://www.jasrac.or.jp/culture/stream/index.html>